

# WAVE



ゆっくり、のんびり  
**阿蘇大陸**

財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地2402(熊本県阿蘇総合庁舎内)  
TEL.0967(22)4801(直通) / 0967(22)1111(内線571)  
FAX.0967(22)4802 URL <http://www.asodc.or.jp/>

## C O N T E N T S

理事長挨拶	1
阿蘇ゆるっと博の開催	2
回遊の交通体系づくり	5
阿蘇くじゅう観光圏の取組み	6
阿蘇ジオパーク活動	8
その他の事業	11
職員紹介	12



### ご挨拶



財団法人  
阿蘇地域振興デザインセンター  
理事長 **河津修司**

気象庁により「これまでに経験したことのない大雨」と発表されたこの度の九州北部豪雨により被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

平成23年度は、平成23年3月12日に九州新幹線鹿児島ルートが全線開業し、九州における福岡、熊本、鹿児島の高速度鉄道交通網の縦軸が完成しましたが、前日の3月11日に発生した東日本大震災とその後発生した福島県原発事故の影響を受け、国内旅行はもとより、海外からのインバウンド旅行にも大きく影響しました。被災された地域の早期の復旧、復興を願っています。阿蘇地域でも、各市町村のイベント・まつりの中止など、東北地方に配慮し、観光における自粛ムードが高まりました。しかし、5月の連休頃から徐々に阿蘇地域への訪問客も増加し、また東北への修学旅行が九州へ振り返られるなどの好転も見られ、夏休み以降は、中国地方の山口、広島、岡山および関西圏の大阪周辺地域からの九州新幹線の利用客の増加は、豊肥本線にも見られ、阿蘇への観光客や宿泊客の増加が図られてきました。しかし、この度の災害で観光面での落ち込みも心配されますので、その対策も考えなければなりません。

阿蘇地域は、滞在交流型の旅をテーマとした「阿蘇カルチュラルリズム博覧会」(以下「阿蘇ゆるっと博」という。)を昨年から展開して、地域振興と観光振興を融合した取組みをスタートしました。また、ジオパーク拠点施設の中核である阿蘇火山博物館と連携しながら、ジオパークセンターとしての業務を行っており、世界ジオパークネットワーク加盟認定に向けた取組みも進めています。

一方では、公益法人制度改革に伴う新法人への移行について検討し、公益財団への移行を確認しました。平成24年度は、阿蘇草原の維持再生に対する事業も新たに加わり、環境面でのアプローチも推進します。

これらの事業は、地域の皆様のご理解とご協力なくしては成りえないものですので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



# 秋

心まで満たされる美味しい秋の彩り

## 阿蘇スローフードフェスタ



『秋あそ収穫祭』では、「農」と「食」をテーマにした『阿蘇スローフードフェスタ』を開催。農家レストラン、農家民宿、直売所など67の参加店舗でさまざまな特典が用意されました。参加店舗で開催したスタンプラリーでは342名の応募がありました。また、福岡都市圏を対象にした『阿蘇日帰り満喫スローツアー』では62名の参加があり、今までにない阿蘇の魅力を紹介することができました。

1年の最後を締めくくるのは、『阿蘇温泉郷・湯ごもり祭』。参加温泉での入浴料が300円と割安になる入浴券の販売や先着3,000様へ「湯ごもりタオル」のプレゼントを実施。「めぐり湯」・「泊まり湯」のダブルスタンプラリーや、各温泉地での趣向を凝らしたイベントやサービスが行われ、イベント中15,934名の方が入浴券を利用して下さいました。



凍える旅人を温める冬のオアシス

## 阿蘇温泉郷・湯ごもり祭

芽吹き季節、大地のエネルギーを体験

## 阿蘇エコたびフェスタ



阿蘇の山歩きのプロたちが、旅人たちを案内する「春あそ山歩き祭」では期間中513名の参加があり、阿蘇くじゅう地域の魅力を再認識するきっかけづくりにも繋がりました。また、阿蘇くじゅう全域をフィールドにし、豪華賞品をゲットする宝探し『阿蘇トレジャーハンティング2011』も行われ、期間中約3万人の方々に参加されました。

数え切れないほどの湧水地がある阿蘇くじゅう。夏は、水に特色のあるパピリオンで、多くの旅人が、阿蘇くじゅうの豊かな清水に暑さを忘れるひとときを楽しみました。商店街の参加店舗に持参すると、様々な特典が受けられる『涼みうちわ』を片手に、期間中1,175名の方が『夏あそ涼水祭』の特典を利用して下さいました。



“涼”にあふれた湧水郷を“まちあるき”

## 阿蘇まちめぐり涼水祭

## 阿蘇ゆるっと博ファイナル特別イベント 阿蘇の火まつりオープニング

「阿蘇ゆるっと博」の最終プロモーションとして、「阿蘇の火まつり」と連携し、大分県竹田市を拠点として世界的な活動をみせる和太鼓エンターテイメント集団「T A O」による特別公演、地元横堀岩戸神楽による公演や、阿蘇ゆるっと博宣伝課長の進藤久明氏によるミニライブなどを実施しました。

メイン会場の阿蘇市の「はな阿蘇美」から山肌に浮かびあがる、阿蘇・往生岳に設置した縦横350mの日本最大級の「火」の文字と「阿蘇の火まつり」にふさわしい「T A O」の力強いパフォーマンスに約3,000人の来場者の方々は魅了されました。

また、火文字の点火に合わせて、東北地方の復興を祈願した風船を来場者に配布しての「バルーンリリース」も実施しました。

■開催期日：平成24年3月10日(土) 14時～20時

■開催場所：はな阿蘇美(阿蘇市小里)

## 阿蘇音楽大陸「音旅」コンサート

『阿蘇音楽大陸～音旅～』は、「ゆっくり、のんびり、阿蘇大陸」に込められた、素顔の阿蘇に触れる新しい旅のカタチ—無限の可能性を秘めた「音楽」のパビリオンとして、阿蘇ゆるっと博と連携し、阿蘇地域での旅の楽しみ方を団塊世代やファミリー層をターゲットにして実施されました。

平成23年10月2日(日)阿蘇市の乙姫ハイランド会場では延べ1,200名、平成23年10月29日(土)・30日(日)南阿蘇村のあそ望の郷くぎの会場では延べ約2,500名にご来場頂きました。

## 九州で当地グルメフェア in 阿蘇



九州の食を一同に集め、地域の隠れた食の開発やブランド化、地産地消や農商工連携の推進、交流人口・宿泊客の増加を目指すと共に、ご当地グルメを通じて九州を元気にすることを目的とした地域活性化事業として開催しました。

九州で3回目の開催となる今回、阿蘇が舞台となり「阿蘇ゆるっと博」と連携してイベント性を高める事で相乗効果を図りました。ご当地グルメブースには地元6団体を含む22団体、観光物産ブースには8団体が出展され、ステージ上での多彩な催しなど、2日間で32,000名の来場者がありました。

また会場周辺の内牧商店街では『まるごと阿蘇in内牧』という地元手作りの商店街振興イベントも開催され、地域との連携による相乗効果が認められました。

■開催期日：平成23年10月15日(土)・16日(日)

■開催場所：阿蘇市立阿蘇体育館前広場



## 阿蘇・旅の市場システム

財団法人地域総合整備財団(ふるさと財団)からの助成事業を活用した阿蘇観光情報のデータベース化と併せて、従来からある「阿蘇ナビ」を「阿蘇・旅の市場」システムとして大幅リニューアルを実施したことから、新規ID・パスワード情報を登録施設や地域コンシェルジュに配布し、常に旬な情報をアップしていく体制を整え、お客様に充実した阿蘇の観光情報をご提供できる仕組みを作りました。

http://www.asonavi.jp/

## 阿蘇草原再生協議会

阿蘇草原再生協議会とは、阿蘇郡市内の草原地域において、保全や維持管理を含む自然再生の幅広い取組を進め、以前の多様性のある草原環境を取り戻そうとするもので、地元牧野組合やNPO、専門家、地元住民、地方公共団体、関係行政機関などが自主的に参加して設立された組織です。



平成22年度に阿蘇地域振興デザインセンターとイオン株式会社及びイオン九州株式会社は、阿蘇地域の観光振興・経済振興などに協力して取り組むことを目的に提携し、阿蘇ゆるっと博公式カードとして『阿蘇千年の草原WAOON』を発行しています。

全国のWAOON加盟店で利用された売上金の一部をイオンから「阿蘇草原再生募金」へ自動的に寄付される仕組みになっており、平成23年度には60万円余りの寄付がありました。

# 阿蘇くじゅうの交通体系づくり



## あそまる切符 新登場



ANA並びに旅行商品「ANAスカイホリデー」の阿蘇くまもと空港到着便ご利用のお客様を対象に、全日本空輸(株)と九州産業交通ホールディングス(株)が、阿蘇くじゅう観光を共同でプロモーション。

阿蘇くじゅう高千穂地域及び熊本駅までの九州産交バスが乗り放題になるお得な乗車券「あそまる」(2日券・3日券)を発売しました。定期観光バス特急バス・地元路線バス・阿蘇山口ープウエーも利用対象なので、阿蘇をゆっくり、ぐるっと観光したい方にぴったりの一枚です。

## 阿蘇くじゅう観光圏交通案内支援 (YOKAROバス)

平成23年度より福岡都市圏を発地として、一部の阿蘇くじゅう観光圏への、会員制貸切バス『YOKAROバス』の運行を開始しました。

「福岡市→黒川温泉→竹田市」、「福岡市→山鹿市→菊池市→阿蘇市」の2つのルートに、24年4月から「福岡市→阿蘇くまもと空港→高森町→高千穂町」という新しいルートが新設されました。この会員制貸切バスを基軸とした誘客促進と、圏域内における公共交通ネットワーク

## 電動アシスト機能付き レンタサイクル設置

地域交流の受け皿のひとつとして、阿蘇地域の主要駅及び滞在促進地区に、電動アシスト自転車を使ったレンタサイクルを導入し、阿蘇地域に点在する地域資源を時間をかけて楽しめる仕組みと、滞在交流型観光の推進を図りました。

平成23年度は、

阿蘇市の阿蘇火山博物館、阿蘇山口ープウエー駅、小国町の木魂館、ゆけむり茶屋、杖立温泉観光協会、坂本善三美術館にそれぞれ5台ずつ、計30台を設置しました。



情報の提供による移動支援を促すため、公共交通案内と滞在地の観光案内をセットにしたパンフレットを作成し、会員制貸切バス利用者へのダイレクトメールの発送と九州内各拠点への情報提供を推進しました。



- A4判カラー 8ページ 20,000部
- YOKARO会員へのダイレクトメール発送 (福岡都市圏7,700名相当)

## 阿蘇デジタルサイネージシステム導入

阿蘇くじゅう地域は、外国航路船舶乗降客数84万人を受け入れる、九州の玄関口である博多港と連携し、海外からの観光客を快適にナビゲートしていく計画です。

この計画に併せて域内の交通結節拠点に、周遊と滞留を促すためのデジタルサイネージ(次世代型デジタル・インフォメーション・ディスプレイ)による先進的な案内表示を設置し、将来的に博多港との連動プロモーションの実現、誘客促進と移動支援の向上を図っていきます。

平成23年度は、阿蘇地域における主要拠点5箇所にシステムを追加で設置したことで、計14台となり、阿蘇ゆるっと博多での移動支援や情報発信など、滞在交流型観光地に向けた環境づくりを整備しました。



# 阿蘇くじゅう観光圏

観光庁 観光地域づくりプラットフォーム支援事業

阿蘇くじゅう観光圏は、熊本・大分の県境に広がる「阿蘇くじゅう国立公園」に、宮崎県の高千穂町を加えた、地形及び歴史的に共通の特性をもつ広大なエリアです。本事業では、観光圏整備法に基づき、2泊3日以上での滞在型観光が可能な観光圏の形成を推進しています。

## 阿蘇くじゅう観光圏 旅行商品造成・広報

平成24年度から阿蘇ゆるっと博の受入体制の維持を図りながら、さらにステップアップした観光地の確立を目指し、平成24年度上期催行の周遊型・滞在型プログラムを地元旅行業団体により新規に造成しました。

### ■九州旅客鉄道株式会社（JR九州）との連携

九州新幹線全線開業効果を最大限活用するため、JR九州と連携を図り、九州管内を含む関西以西からの新規顧客獲得を目的とした商品造成・広報展開を図りました。



## 阿蘇くじゅう高千穂 ガイドブック作成

滞在交流型をキーワードにした観光地づくりを進める中において、航空会社や鉄道・バス会社と連携した公共交通網を主軸に置いた取組みは実施していますが、やはり主流となっているマイカーでのドライブ型観光の来訪者へも情報提供の必要性があると考えます。

そこで、地域内外へ情報発信を行い、観光圏への誘客促進を図るとともに、観光圏における滞在機能強化を図ることを目的に、阿蘇くじゅう

株式会社リクルート（九州じゃらん）との連携  
九州管内をターゲットとして、新しい阿蘇の魅力伝えることを目的に、利用頻度の比較的高いホームページ上や旅行雑誌を活用した広報展開を図りました。



### ■全日本空輸株式会社（ANA）との連携

航空キャリアと連携を図ることで、関東・関西からの新規顧客獲得を目的に、阿蘇くじゅう観光圏の空の玄関口である「阿蘇くまもと空港」を拠点とした商品造成・広報展開を図りました。

観光圏の秋冬限定の「食」情報やイベント情報を、さらにはスタンプリリーやクーポンなどをセットにした総合版のガイドブックを作成しました。

■A4判カラー 16ページ 50,000部



## 阿蘇地域観光 多言語マップ作成



阿蘇地域では、「阿蘇ゆるっと博」の取組みをベースに、地域が一体となって観光振興及び外国人観光客をもてなす魅力の向上と、多言語化による案内や地域での人との交流など、国際競争力のある観光地を目指しています。

この目標を達成するため、外国人観光客への利便性の高い案内表示等について、通常の4カ国語（英語・韓国語・中国語・台湾語）に加え、欧州、特に来訪者の多いフランス語について検討を行い、多言語情報提供モデルを確立させるため、多言語マップを作成し、外国人観光客の受入体制の確立・強化を図りました。

■ A2判カラー 折りたたみ式

英語3万部・韓国語3万部・中国語1万部・台湾語2万部・フランス語1万部 計10万部

## 阿蘇くじゅう観光圏 コンシェルジュ育成研修

阿蘇ゆるっと博では、現場での相談など適切に対応する地域コンシェルジュが、一番の要となります。

そこで、各市町村単位にある観光インフォメーションや、地元旅行会社などを地域コンシェルジュとして育成するための研修会を開催しました。また、本研修会では、各エリアでの現地研修などを取り入れ、情報共有・横の連携強化を含めた受入体制の強化を図りました。

## 東京駅前インフォメーションセンター 「TICC東京」への参画

東京駅前のTICC東京に参画し、首都圏を中心に情報提供を行い、阿蘇くじゅう観光圏への誘客促進を図るとともに、阿蘇ゆるっと博における冬季イベント「阿蘇温泉郷・湯ごもり祭」や、春の風物詩「阿蘇の火まつり」の紹介、平成24年度上期旅行商品等の広報などを目的に、森観光トラスト(株)の協力のもと、阿蘇くじゅう観光圏のプロモーション活動を実施しました。

今回は観光PRと併せて、地域物産の展示販売も併設すると共に、阿蘇ゆるっと博の宣伝課長である進藤久明氏のライブパフォーマンスなどを加えて相乗効果を図りました。



PRブース風景



進藤久明氏ライブ風景

第1回	平成23年8月31日(火)	阿蘇市	65名
第2回	平成23年10月4日(火)	阿蘇市	28名
第3回	平成23年10月26日(火)	南小国町	20名
第4回	平成23年12月15日(木)	高森町	36名
第5回	平成24年2月10日(金)	竹田市	30名
第6回	平成24年2月24日(金)	高千穂町	39名



第1回コンシェルジュ研修会

## インターネット動画情報の 制作・配信

阿蘇地域のプロモーション活動を展開していくにあたり、九州の観光資源である阿蘇の自然美、伝統などを映像化し、閲覧回数が多い動画配信企画「Nippon Archives」を活用した配信により、滞在交流型観光の情報提供を行い、誘客促進と滞在機能強化を図りました。

「Nippon Archives」で制作した動画は、全番組で年間延べ約1,500万回のアクセス数を誇り、首都圏近郊での視聴者が多く、番組で取り上げた土地への来訪促進にも繋がっています。撮影した素材は、CMへのリメイク、展示会や観光案内所など二次利用も可能です。

## 阿蘇くじゅう観光圏 シンポジウムの開催

基調講演に観光庁観光地域振興部長の志村格氏をお招きし、「観光を核とした地域振興について」ご講演いただきました。また、パネルディスカッションでは「阿蘇ゆるっと博がめざすもの」をテーマとし、実績報告の内容を踏まえ専門家の方々からご意見やアドバイスをいただきました。さらに、意見交換を交え地元案内人や宿泊施設、交通事業者などツーリズム関係の参加者の皆様と共に、今後の「阿蘇くじゅう観光圏」としての新たな展開に関する意識の共有化が図られました。当日は、約200名の参加がありました。





地球のダイナミックな活動を感じ、楽しむことが出来る“大地の公園”「ジオパーク」。  
 阿蘇ジオパークは、火山の様々な地形・地質と、火山の恵みを受け暮らしてきた人間とのつながりを感じることが出来る場所です。現在、ユネスコが支援する世界ジオパークネットワークへの認定を目指し、様々な活動を行っています。

## ストーリーの紹介

阿蘇ジオパークを感じる「ストーリー」  
 阿蘇地域の1市4町3村にまたがる阿蘇ジオ

パークには、現在33ヶ所のジオサイト（みどころ）があります。それらを巡ることで、阿蘇火山の成り立ちを知るストーリーを感じることが出来ます。

### その1

世界最大級の大きさを持つカルデラや、外輪山に広がる火砕流地形などの爪痕から、巨大噴火の歴史を見ることが出来ます。



大観峰カルデラジオサイト（大観峰）

### その2

今もなお活発な活動を続けている中岳火口とその周辺は、生きた火山から地球の息吹を感じることが出来る場所です。



中岳ジオサイト（中岳火口）

### その3

広大な草原や豊かな水など、火山の恵みと人々との関わりを感じることが出来ます。



池山・山吹ジオサイト（池山水源）

## 活動・整備紹介

阿蘇ジオパークでは、阿蘇のストーリーを分かりやすく示し、訪れた方が興味を持って、楽しく周っていたり出来るような取り組みを行っています。平成23年度は、環境省エコツーリズム地域コーディネーター事業を活用しながら、ソフト・ハード両面で充実した活動を展開することが出来ました。

**地域の教育普及活動**：地域巡回講座「阿蘇ジオパークを語ろう！」を、各市町村の地域づくり団体などを中心に計8回実施しました。地域の皆さんとジオパークの資源を考える機会として、今後も行っていく予定です。また、子どもたちの教育活動として、阿蘇火山博物館と共同で「火山と環境シンポジウム」を開催し、学習成果の発表を行いました。今後も様々な機関と連携しながら教育・普及活動を行っていきます。

## ジオツアーの立案、ガイドブックの作成

：広い阿蘇ジオパークをテーマに沿って学びながら、楽しむことが出来るジオツアーコースを5コース作成し、ガイドマップを作成しました。今後は、モデルコースを活用したツアー商品や、新たなコースの作成など、阿蘇ジオパークの魅力をもっと感じることが出来るコース作りを行っていきます。また、コースの整備に合わせ阿蘇ジオパークの内容や活動を体系的に理解することが出来る「阿蘇ジオパーク・ガイドブック」を作成しています。

**シンポジウムの開催**：平成24年3月には、阿蘇ジオパークの拠点施設である阿蘇火山博物館において、日本ジオパーク委員会の尾池和夫委員長（前京都大学総長）をはじめ多方面からゲストをお招きして「阿蘇ジオパークシンポジウム」を開催しました。



# 「めざせ！ 世界ジオパーク」阿蘇ジオパーク

**解説板：**ジオサイトの特徴や成り立ちを示した解説板を順次設置しています。また、観光の拠点には順次総合案内板を設置しています。



総合案内板

**ジオパーク拠点整備：**阿蘇山上の阿蘇火山博物館1階には「阿蘇ジオパーク推進室」を設置し、山麓の阿蘇地域振興デザインセンターと連携しながら一体的なジオパーク整備を進めています。推進室には常勤職員を3名配置しており、連絡機能や情報発信の役割を強化しています。



推進室移転開所式

## 阿蘇「世界」ジオパークに向けて…

阿蘇ジオパークでは、阿蘇地域の恵まれた地形・地質遺産と人間生活との歴史を世界にアピールして、地域資源の一層の保全・活用に繋げていくため、「世界ジオパークネットワーク」への加盟認定に向けた取り組みを行っています。解説板やホームページ・パンフレット・コー

**ジオツアーの立案、ガイドブックの作成…**広い阿蘇ジオパークをテーマに沿って学びながら、楽しむことができるジオツアーリズムコースを5コース作成し、ガイドマップを作成しました。今後は、モデルコースを活用したツアー商品や、新たなコースの作成など、阿蘇ジオパークの魅力をもっと感じることが出来るコース作りを行っていきます。また、コースの整備に合わせて阿蘇ジオパークの内容や活動を体系的に理解することが出来る「阿蘇ジオパーク・ガイドブック」を作成しています。



コースマップ

**ポスター・パンフレットなど、PR活動の展開…**阿蘇ジオパークを内外に広くPRするため、統一ビジュアルを作成し、ポスターやパンフレットを作成し、県内外の拠点へ配布を始めています。

スマップなどは、順次多言語化を進めています。また、阿蘇地域振興デザインセンターが進める回遊の交通体系の仕組み、デジタルサイネージ(電子看板)システムや地域コンシェルジュとの連携を行い、日本を代表し、世界に誇るジオパークをつくり上げていきます。阿蘇にお住いの皆様がお名実ともに「世界に誇れる阿蘇」を目指して、平成24年度もジオパーク活動を一層推進して参ります。

## 世界文化遺産登録に関する活動

世界文化遺産は、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づき、「世界遺産リスト」に登録されている顕著にして普遍的な価値を持つ人類共通の資産のことです。阿蘇地域は、この世界的ブランド化を目指し、登録に向けた取組みが進められています。

阿蘇地域振興デザインセンターは、世界文化

## 公益法人制度に伴う新法人への移行について

平成20年12月1日から5年間を移行期間とする公益法人制度改革に伴い、阿蘇地域振興デザインセンターは、理事会・幹事会において新法人移行の検討を進めてきました。

その検討をする中で、平成24年度からの今後5年間の事業方針となる中期計画を策定致しました。今後財団として取り組むべき事業を精査する中で、公益財団法人への移行を目指す方向で確認されました。

なお、平成23年度は、公益財団法人としての方向性を明確にしながら、阿蘇地域振興デザインセンターの事業内容と組織体制を確立することを視野にその事業内容を、一般事業としての広域的な地域づくり型観光（阿蘇ゆるっと博）を中心とした事業（地域振興と観光振興）と、公益事業としての阿蘇ジオパーク活動を中心とした事業（環境・景観保全及び地質・地形・歴史・文化・教育）の大きく2つに分けて進めました。

遺産の前段となる国の「重要文化的景観」の選定を目指して、熊本県と市町村により設立した「阿蘇世界文化遺産登録推進協議会」と連携し、「阿蘇環境デザイン策定事業」に取り組んでいます。



## 熊本ツーリズムコンソーシアム活動

熊本ツーリズムコンソーシアムは、熊本県全体でツーリズムのサービスの向上を図り、それを全国に一体的に発信するため、関係者が連携したレベルアップ策の実施及びビジネスモデルの創出などを支援することにより、熊本県内のツーリズムの持続的な発展に寄与することを目的として設立された団体です。

平成23年度は「阿蘇ゆるっと博」の開催に併せて「第10回全国グリーンツーリズム大会」が阿蘇地域の8会場において開催されました。

大会では、分科会（会場は各パビリオン）での事例発表や意見交換、全体会では日本のグリーンツーリズムを振り返りながら、これからのツーリズムの在り方について意見交換が行われました。



第10回全国グリーンツーリズムネットワーク熊本阿蘇大会（全体会）

### 地域情報

## 阿蘇の地域情報を発信中!

### 情報誌

●情報誌「ASO大陸」

Vol.30...15,000部

●機関誌「WAVE」

Vol.18...30,000部

●阿蘇地域観光ガイドブック

「阿蘇ワルトラセクション」...30,000部

### ホームページ

●平成23年度は、阿蘇ゆるっと博の開催に伴い、阿蘇くじゅう地域の情報を紹介する公式ホームページを開設したことから、その管理・運営を行いました。阿蘇ゆるっと博における四季折々の旬な情報をタイムリーに提供しました。

■阿蘇ゆるっと博 <http://www.aso-kuju.jp>

■阿蘇・旅の市場 <http://www.asonavi.jp>

●「スローな阿蘇づくり」をより分かり易く紹介するため、動画専門サイト「阿蘇テレビ」も開設しています。阿蘇テレビにおいて、阿蘇地域振興デザインセンターが推進している「阿蘇カルテラツーリズム」の楽しみ方や公共交通とのつながりなどを1件1件動画で配信し、素顔の阿蘇を紹介しています。平成23年度は、阿蘇ゆるっと博をPRする動画コンテンツを作成し、掲載しました。

### FMラジオ番組の運営

毎週土曜日のお昼12時30分から13時までの30分番組、FM熊本の「ゆっくりのんびりASO大陸」の放送内容や取材先の決定、生電話コーナーの出演者の手配等を行いました。阿蘇地域の人や自然、観光地、イベントなどを広く紹介し、阿蘇の魅力発信しています。

## 助成事業

### 阿蘇地域づくり支援事業

「阿蘇ゆるっと博」推進のために、新たな地域づくりの取組・地域の活性化及びツーリズム創出の効果が期待できる事業へ支援を行いました。

- ①内牧温泉街散策して楽しい商店街創り事業（内牧繁栄会）
- ②西原ゆるっと博/萌の里パビリオン整備事業  
（阿蘇ゆるっと博西原村実行委員会）
- ③阿蘇ゆるっと博「たじりパビリオン」誘客促進事業  
（阿蘇ゆるっと博産山村実行委員会）
- ④南外輪山2地域連携エコトレッキング事業  
（柿野・山田牧野組合第2部造林組合）
- ⑤宮原一番街商店街川まつり（2011川まつり実行委員会）
- ⑥“Genesis-2”起源展音楽祭with根子岳ごはん  
池田一「平和へのL字線分」プロジェクト2011  
（Genesis起源展実行委員会）
- ⑦南阿蘇・大草原コンサート  
ーアーティストと南阿蘇の子どもが音符と語りで紡ぐー  
（南阿蘇・大草原コンサート実行委員会）
- ⑧うるんころん2011「東外輪山ウォーキングin高森」  
（高森町観光協会）
- ⑨阿蘇市健康づくりの郷事業（阿蘇市健康づくりの郷推進委員会）
- ⑩南阿蘇村観光PR・物産キャンペーン（南阿蘇村観光協会）
- ⑪高森町グリーンツーリズム推進事業  
（第10回全国グリーンツーリズムネットワーク  
熊本阿蘇大会高森町実行委員会）
- ⑫阿蘇ご当地グルメガイドブック作成事業  
（阿蘇ご当地グルメ制作委員会）
- ⑬蘇陽峡もみじ祭～山都町蘇陽ツーリズム  
～ゆっくり、のんびり、山の時間（蘇陽峡もみじ祭実行委員会）
- ⑭西原村ゆるっと博/萌の郷地区ツーリズム環境整備事業  
（萌の郷地区パビリオン企画委員会）
- ⑮タウンツーリズム推進活動事業（阿蘇人塾）



第1回 大阿蘇元気ウォーク（阿蘇市）

## 研究・研修

### 第17回 阿蘇人塾(阿蘇地域づくり塾)の開催

阿蘇人塾は、阿蘇で地域づくりに携わる地域の後継者や若手の地域づくりリーダー、阿蘇に興味がある地域内外の方々に呼びかけ、人づくり・地域づくり塾的な位置づけとして開催しています。

平成23年度は、阿蘇市観光協会との共催で、専門家を招聘し、ツイッター及びフェイスブックに関する講習会を開催しました。

■開催日：平成23年6月24日(金)

■場所：阿蘇市商工会（本所）2F会議室（阿蘇市）

■内容：ツイッター及びフェイスブック講習会

■講師：熊本市2名、佐賀県武雄市1名

■参加者：60名



#### 平成23年度 スポンサー一覧

- 阿蘇地域振興  
デザインセンター
- (株)阿蘇熊牧場
- (株)日本リモノイト
- 黒川温泉観光旅館  
協同組合

熊 本	77.4MHz
阿 蘇	81.3MHz
南阿蘇	76.8MHz
小 国	80.4MHz
人 吉	82.0MHz
五 木	81.3MHz
御所浦	78.4MHz
牛 深	76.9MHz

<http://www.fmk.fm/aso/>



産山村取材風景

平成23年度は4社のスポンサーで「FMKあそ大陸の会」を運営し、番組の企画・協議を行いながら進めました。

住むことが誇りになる

価値ある阿蘇をめざして



事務局長  
坂元 英俊

九州新幹線鹿児島ルートと全線開業と東日本大震災から1年がたち、新幹線の開業効果と修学旅行や体験学習、観光の行き先も九州へとシフトした1年でした。東北6県では「阿蘇カルテラツーリズム博覧会」(以下「阿蘇ゆるっと博」という)の考え方をモデルにした東北観光博が始まり、東北地域の観光による復興が本格化しています。このようななか、九州における福岡、熊本、鹿児島の高速度交通網の縦軸の完成と、中国地方の山口、広島、岡山および関西圏の大阪周辺地域が観光や商業の交流圏域として身近な存在となりつつあり、旅やドライブ、宿泊先などに選ばれている阿蘇として、九州・関西との関係強化をなおいっそう図る時期でもあります。阿蘇地域は、九州新幹線を活用すれば、博多駅や鹿児島中央駅から2時間以内に着着できるという九州でも真ん中にある地の利を活かすことができます。雲仙・天草や熊本、大分県の由布院や別府、竹田や宮崎県高千穂などとの横軸連携や博多、鹿児島を見据えた縦軸連携も視野に入れ、「阿蘇ゆるっと博」で取り組んだ滞在交流型観光を地域全体に展開して、地域振興と観光振興の融合を継続することが必要です。あわせて、世界ジオパークネットワークへの再チャレンジの準備を進めてきました。一方で、公益法人制度改革は、1年間かけて検討してきた中長期の事業計画の内容をもとに、平成25年4月の公益法人の認可を目指しています。財団の今後5ヶ年の基本的事業を取りまとめた中長期計画では、①豊かな自然による世界ブランドの確立、②地域の元気再生による地域力向上、③広域連携による競争力のある観光地づくりの3つの基本方針を定めました。阿蘇DCCは、次長制度を設け、事務局機能の強化を図り、阿蘇地域で行動するシンクタンクとして、阿蘇地域振興のデザインを描きながら広域的な連携を深めていく役割があります。また、私事ではありますが、平成24年9月末日で、事務局長を退任いたします。11年の長きにわたり、県および市町村行政・民間の皆様には多くの支援をいただきました。心から感謝いたしますとともに、個性に溢れ、日本でも代表的な「住むことが誇りとなる価値ある阿蘇地域」となるように、これからも応援致します。ありがとうございました。



事務局長次長  
郷 澄雄

『阿蘇は元気でいます。』  
阿蘇地域の皆様、今年の7月から阿蘇地域振興デザインセンターに、お世話になることになりました。郷澄雄と申します。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。こちらに来て間がありませんが、阿蘇DCCが取り組むテーマを一つ一つ、前進できるように局長を中心に取り組んでいきたいと思っています。特に今年阿蘇ジオパークが世界認定に向けての正念場を迎えております。そんな中、ヨーロッパからビッグ・クニクスが飛び込み、「神の粒子」と呼ばれる「ビッグ・クニクス」の発見、宇宙誕生のロマンが、後押ししているかと思えます。世界最大級のカルテラが世界ジオパークに認定されることで、阿蘇地域で生活を営んでいる私たちと、阿蘇地域を訪れる人々とが共存できることになって、私たちの生活が益々、元気で明るく豊かになることを期待しているところです。これからも阿蘇の特色を発掘し磨き、地域と連携しながら阿蘇の振興発展に、取り組んでいきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



興梠 和明

『よろしくお願ひします』  
財団法人阿蘇地域振興デザインセンターに派遣され2年目を迎えます。  
昨年は、九州新幹線全線開通に併せて開幕した「阿蘇ゆるっと博」において、四季折々の阿蘇を体験いただくさまざまな事業を1年間かけて実施し、多くの方々に新しい阿蘇の魅力をお伝えすることが出来たと感じます。  
また、平成23年度においては阿蘇地域振興デザインセンターが今後5年間に取り組む事業(主活動)について取りまとめた「中期計画」を策定しました。基本的なテーマは3つで、「豊かな自然による世界ブランドの確立(阿蘇草原の維持・再生)」「地域の元気再生による地域力向上(情報発信と地域振興)」「広域連携による競争力のある観光地づくり(阿蘇カルテラツーリズムの推進)」に取り組むこととしています。  
これからも、地域の方々の意見交換や交流を深めながら、阿蘇の地域振興や魅力発信に取り組んでいきたいと思っております。今年度もよろしくお願ひします。



岩本 真一

『「人」との出会いに感謝』  
はじめまして、今年6月から財団法人阿蘇地域振興デザインセンターに派遣されました南阿蘇村の岩本と申します。  
阿蘇DCCでは、日々新たな方々との「出会い」があります。この「人との出会い」に感謝し、大事に関係性を築きながら、交流や連携を深めていきたいと考えています。  
阿蘇地域は、魅力ある観光地・温泉地・水源地など数多くの資源に恵まれています。観光地域、人、交通展開等を上手く活用しながら、滞在交流が長くできる地域を一つでも多く増やしていくことが地域活性化の向上に繋がるのではないかと考えます。  
微力ではありますが、阿蘇の一員として、自分出来ることは何かを日々考えながら、阿蘇の魅力について情報発信していくとともに阿蘇地域の活性化向上に繋がるよう取り組んでまいりたいと思っておりますので、皆様よろしくお願ひ致します。



石松 昭信

『世界が認める阿蘇へ』  
平成23年度は、「阿蘇ゆるっと博」の開催。それは、平成14年度から推進してきた「スローな阿蘇づくり」の集大成でもあります。阿蘇カルテラツーリズムの開発と公共交通のシステム化の融合がベースとなりますが、その中でも重要なウエイトを占めていたのが、各パビリオンで頑張っていた「コンシェルジュの皆様です。市町村の枠を越え、県境を越え、人と人がつながり、受け皿としてのネットワークが構築され、「東北観光博」に代表されるような全国的なモデルケースへと発展しました。  
この「阿蘇ゆるっと博」から更なる発展を視野に入れ、大分県竹田市に加え、宮崎県高千穂町へと観光圏整備法に基づく環境の枠を広げ、「阿蘇くまもと空港」をゲートウェイとした戦略で、滞在交流型の観光地づくりを進めています。  
平成24年度は、世界ブランド化へ一歩前進となる「世界ジオパーク」認定に向けて、二度目の挑戦です。世界が認める大地の公園をめざします。



郷 秀成

『お世話になりました』  
1年2か月という短い期間ではありましたが、このデザインセンターでは様々な方に出会い、色々な事を学ばせて頂きました。今まで阿蘇に住んでいながら、その素晴らしい事に全く気付いていない自分がいましたが、この1年を通して阿蘇の持つ地域資源のポテンシャルの高さや、そこに住む人たちの人柄の良さ等に改めて気付かされ、これまで以上に自分の生まれ育った阿蘇に対して誇りを持つことができるようになりました。  
今回、税務課に異動ということで、デザインセンターとは全然違った環境になります。一日でも早く仕事を覚え、より良い住民サービスができるようになりたいと考えております。デザインセンターとは方向性は違えど、阿蘇に住む方々の生活向上への思いは同じだと思いますので、これからも全力を尽くして仕事に励みたいと思っております。最後になりましたが、局長をはじめとして職員の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。



井野 加奈

『阿蘇の魅力発信』  
南小国町からデザインセンターに出向し、3年目を迎えました井野加奈です。  
平成23年度は私にとって、九州新幹線の全線開業に合わせ開催した「阿蘇ゆるっと博」に始まり「阿蘇ゆるっと博」に終わる、という、目まぐるしく過ぎた1年でした。地域の方達と会議や話し合いを重ねながら進めていく中で、市町村の枠を超え、阿蘇全体で阿蘇の魅力発信するきっかけになったと思います。事務局として反省する部分も多々ありましたが、ご協力いただいた地域の皆様や関係機関の皆様には感謝の気持ちでいっぱい입니다。  
今年度以降も、さらに地域間の連携が深まっていくことを期待しつつ、私自身も、今年がデザインセンターへの出向最後の年となるので、悔いが残らないよう皆様との関わりを大事に頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。